

トポロジカル秩序の分類に制限を与える禁止定理

低音

November 8, 2024

2025 年物性若手夏の学校やります!!!

- 全国の物性物理関連の大学院生が集結
- 4泊5日の集中合宿
- 講義・集中ゼミで最先端研究をキャッチアップ
- 学会形式で自分の研究を発表

若手研究者が研究の道を本格的に歩み始める第一歩になります!!!

参加・幹旋・各種協賛お願いします!!!

↓個人協賛応募フォーム↓



自己紹介: 低音

- 京大 基礎物理学研究所 M1
- 専門は凝縮系理論物理
- 登山・自転車が趣味
- note 「ペンローズのグラフ記法」
- 第70回物性若手夏の学校 副代表



このセミナーで目指すもの

目標

自発的対称性では説明できない相の分類を理解する

1 review: 自発的対称性の破れ

2 beyond SSB の例: toric code

3 量子相の分類問題

4 対称性と表現

5 Conclusion

定義 (固有方程式)

$$\begin{bmatrix} H_{11} & \cdots & H_{1N} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ H_{N1} & \cdots & H_{NN} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \phi_1 \\ \vdots \\ \phi_N \end{bmatrix} = \underset{\text{固有値}}{E} \begin{bmatrix} \phi_1 \\ \vdots \\ \phi_N \end{bmatrix}$$

固有状態ベクトル 固有状態ベクトル

$$\hat{H} |\phi\rangle = E |\phi\rangle$$

$$\text{---} \boxed{H} \text{---} \boxed{|\phi\rangle} = E \text{---} \boxed{|\phi\rangle}$$

定義 (理論)

エネルギーを固有値にもつ行列 \hat{H}

定義 (基底状態)

理論 \hat{H} の最小固有値を出す固有状態. 絶対零度では基底状態が実現する.

定義 (状態の対称性)

変換 \hat{U} によって $\hat{U}|\psi\rangle \equiv |\psi\rangle$ となること

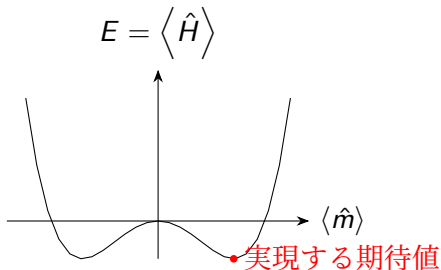
定義 (理論の対称性)

変換 \hat{U} によって $\hat{U}\hat{H} = \hat{H}\hat{U}$ となること

自発的対称性の破れ

定義 (自発的対称性の破れ (spontaneous symmetry breaking; SSB))

理論 \hat{H} が対称性を持つが, 系の基底状態がその対称性を持たないこと



秩序変数と相の分類

定義 (秩序変数)

対称性の有無に応じて

$$\langle \text{GS} | \hat{O}(x) | \text{GS} \rangle \begin{cases} = 0 & (\text{sym. respect}) \\ \neq 0 & (\text{sym. breaking}) \end{cases} \quad (\forall x)$$

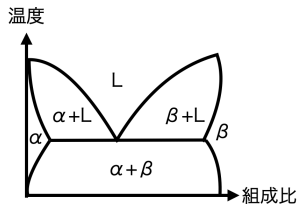
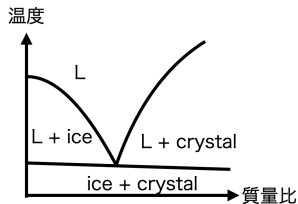
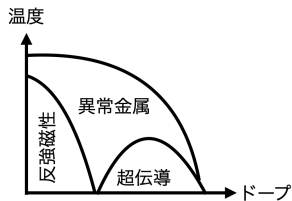
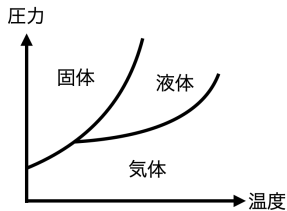
となるような局所パラメータ $\langle \text{GS} | \hat{O}(x) | \text{GS} \rangle$ を秩序変数という.

Example (常磁性・強磁性転移)

磁化 $\langle \text{GS} | \hat{m} | \text{GS} \rangle$ が秩序変数

Landau paradigm

相分類は自発的対称性の破れだけで決定できると思っていた.



1 review: 自発的対称性の破れ

2 beyond SSB の例: toric code

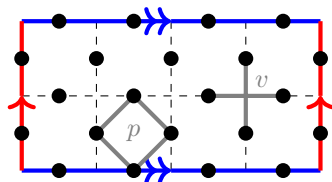
3 量子相の分類問題

4 対称性と表現

5 Conclusion

toric code

トーラスに格子を張ってスピン 1/2 を配置.

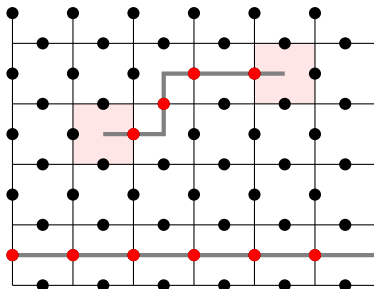


$$\hat{H} = -J_e \sum_v \prod_{j:\text{link to } v} \sigma_j^x - J_m \sum_p \prod_{j:\partial p} \sigma_j^z$$

内部対称性は各方向 π 回転 ($\mathbb{Z}_2 \times \mathbb{Z}_2$).

toric code の Wilson line

灰色の線の上のスピンを反転させる $\sigma_j^\alpha \mapsto -\sigma_j^\alpha$.



線の端の plaquette が励起. loop にすると励起が消滅する.

toric code の基底状態

トーラス T^2 では連続変形で移り変わらない loop の取り方が 4 種類.



loop h_1, h_2 にと直交する loop で $\prod_{j \in l_i} \sigma_j^z$ を取ると, それぞれ固有値が異なる. 基底状態が直交して 4 重縮退.

しかしこの 4 つは局所的な測定で区別できない.

自発的対称性の破れだけでは相の分類が足りない?

1 review: 自発的対称性の破れ

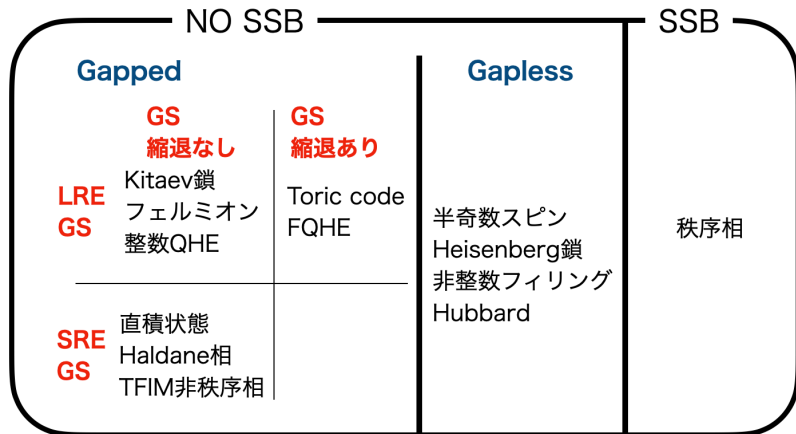
2 beyond SSB の例: toric code

3 量子相の分類問題

4 対称性と表現

5 Conclusion

量子相の分類



エネルギーギャップ

Example (スピン 1/2 Heisenberg モデル)

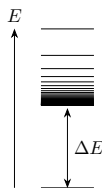
$$H = - \sum_j \hat{\mathbf{S}}_j \cdot \hat{\mathbf{S}}_{j+1}$$

スピンの揃った状態が最安定だが、わずかに揺らせば実質エネルギー 0 で他の状態に移れる。



→ 外部からの擾乱に弱い

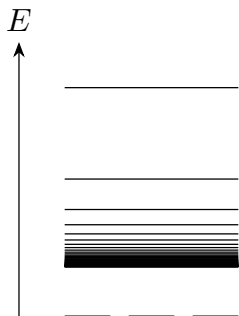
エネルギーギャップ



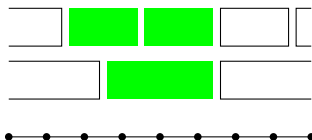
基底状態からのギャップが広ければ広いほど、外部からの擾乱で他の状態に変わりにくい.

e.g. 量子ビットに最適!

基底状態が複数個ある



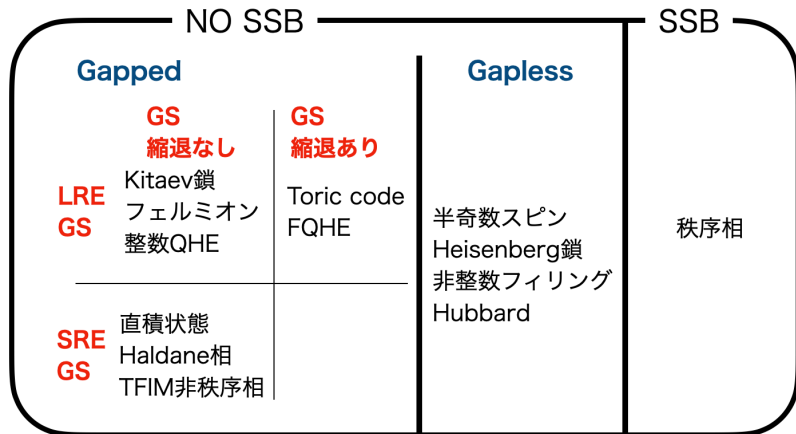
エンタングルメント (量子もつれ)



有限幅の変換を有限回繰り返すと, 有限幅でしか状態が混ざらない.

- エンタングルメントが無限に広がっている: long range entangled (LRE)
- エンタングルメントが有限幅に収まる: short range entangled (SRE)

量子相の分類・再掲



1 review: 自発的対称性の破れ

2 beyond SSB の例: toric code

3 量子相の分類問題

4 対称性と表現

5 Conclusion

対称性による相の制限

SSB では対称性から相分類が制限できた. 量子相も対称性を使って分類できない?

対称性について, ちゃんと勉強しないといけない

対称性再訪

対称性=対称性操作



正三角形の対称性は

- $\pm 120^\circ$ 回転
- 鏡映
- 何もしない

で不変になるものと、これらの組み合わせ.

$$p31m := \{1, R, R^2, M, MR, MR^2 \mid R^3 = M^2 = 1, MRM = R^2\}$$

対称性と群

対称性操作を表す数学の道具として群が使える。

定義 (群)

集合 G と演算 \cdot が以下を満たすとき (G, \cdot) を群という。

- \cdot について閉じる ($\forall g_1, g_2 \in G, g_1 \cdot g_2 \in G$)
- 何もしない操作 (単位元) が存在 ($\exists 1 \in G$ s.t. $1 \cdot g = g \cdot 1 = g \ \forall g \in G$)
- 全ての操作に対し元に戻す操作 (逆元) が存在 ($\forall g \in G \exists g' \in G$ s.t. $g \cdot g' = g' \cdot g = 1$)

あくまで**対称性****対称性**操作しか扱っていない。

群の表現

対称性操作と量子力学 (線形代数) をつなげたい → **群の表現**
群元を (複素数値) 行列の言葉に置き換える.

$$R \rightarrow \hat{R} = e^{2\pi i/3}, \begin{pmatrix} \cos 2\pi/3 & -\sin 2\pi/3 \\ \sin 2\pi/3 & \cos 2\pi/3 \end{pmatrix}, \dots$$

群元 R に $\hat{}$ をつけることで R に対応する行列 \hat{R} に移す.

表現による作用

行列 \hat{R} を物理量 \hat{O} にかけて回転ができる.

$$\hat{R}\hat{O}\hat{R}^{-1} : \quad \hat{O} \text{ の } 120^\circ \text{ 回転}$$

表現行列 \hat{R} を状態 $|\psi\rangle$ にかけて対称操作ができる.

$$\hat{R}|\psi\rangle : \quad |\psi\rangle \text{ の } 120^\circ \text{ 回転}$$

状態の位相不変性

要請 (状態の位相不変性)

量子状態 $|\psi\rangle$ は $U(1)$ 位相の変化

$$|\psi\rangle \mapsto e^{i\theta} |\psi\rangle$$

で物理を変えない

現実には状態ベクトルを測定できず, 必ず期待値や固有値の形しか現れない. \rightarrow 脚は潰れている.



表現も状態にかけるとき位相 $e^{i\theta}$ の自由度が許される.

エネルギー固有状態と既約表現

- \mathcal{H} : 状態の集合
- G : 対称性を与える群
- $\hat{\cdot}: G \rightarrow \mathcal{H}$ に作用する演算子の集合

対称性変換: $g \in G$ で状態が $|\psi\rangle \mapsto \hat{g}|\psi\rangle$ と変換. $\hat{g} \in U(\mathcal{H})$ は $g \in G$ の表現.

系が対称性を満たす ($[\hat{g}, \hat{H}] = 0$) なら,

$$\hat{H}\hat{g}|E\rangle = E\hat{g}|E\rangle$$

\hat{g} は固有値ごとにブロック対角化されている.

→ エネルギー固有状態は G の既約表現の基底

射影表現

- \mathcal{H} : 状態の集合
- G : 対称性を与える群
- $\hat{\cdot}: G \rightarrow \mathcal{H}$ に作用する演算子の集合

量子状態は $U(1)$ 位相自由度を同一視:

$$\hat{g}\hat{h}|\psi\rangle = e^{i\theta_{g,h}}(\widehat{gh})|\psi\rangle$$

としても差し支えない. 位相自由度を演算子に付与 \rightarrow 射影表現
 $U(1)$ 位相自由度を射影表現にも与える $\rightarrow [\theta_{g,h}]$ の同値類 (乗数系) を組める.

例 (スピン 1/2 系の π 回転)

群元のレベルでは $U_\pi^2 = U_{2\pi} = 1$ だが, 演算子としてスピンの作用すると

$$(\hat{U}_\pi)^2 = (e^{-i\pi\hat{S}^{(3)}})^2 = -1 = e^{i\pi}\hat{U}_{2\pi}$$

射影表現の同値類

$$\hat{g}\hat{h} = e^{i\theta_{g,h}}\widehat{gh}$$

U(1) 位相自由度を \hat{g} などにも与えて $\hat{g} \sim \hat{g}e^{i\alpha_g}$ を同一視.

$$e^{i\theta_{g,h}} \sim \frac{e^{i\alpha_{gh}}}{e^{i\alpha_g} e^{i\alpha_h}} e^{i\theta_{g,h}}$$

特に $\{\hat{g}\}$ が 1 次元表現 (U(1)) の場合は, この同一視により

$$e^{i\theta_{g,h}} \sim e^{i\theta_{g,h}} \frac{\widehat{gh}}{\widehat{\hat{g}\hat{h}}} = 1.$$

定理

1 次元射影表現は自明状態の U(1) 位相自由度により同一視すると, 1 次元射影表現は本質的に全ての $\theta_{g,h}$ を 0 とできる.

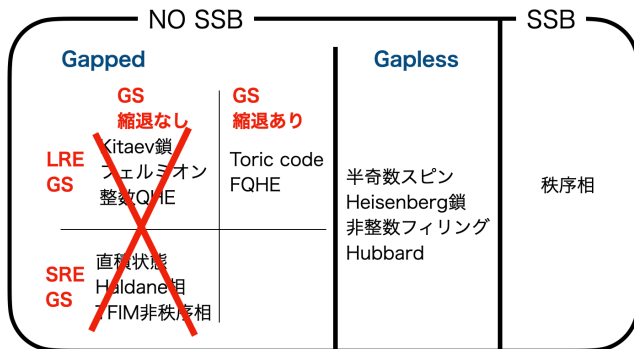
対偶から, **本質的に非自明な射影表現は**表現次元が 2 以上なので**基底状態が縮退**する.

射影表現による相分類の制限

定理 (射影表現なら縮退)

系が非自明な射影表現に従うとき基底状態は縮退する。

相図を制限できる。



何が嬉しいのか？

理論屋にとっては

- 理論にある性質を計算しなくても求められる
- 欲しい性質がある理論を作る指針になる

実験屋にとっては

- 実現したい現象の候補物質を絞れる
- 自分が持っている物質に期待される現象がわかる

いずれにしても、**エキゾチックな現象の発見**に役立つ

1 review: 自発的対称性の破れ

2 beyond SSB の例: toric code

3 量子相の分類問題

4 対称性と表現

5 Conclusion

Conclusion

Take home message

- 量子相は**自発的対称性の破れよりも細かい分類**が必要になる.
- 非自明な乗数系の射影表現は**基底状態が unique gapped であることを禁止**する.
- **モデルがどの相に属するか**の判断材料になる.

2025 年物性若手夏の学校やります!!!

- 全国の物性物理関連の大学院生が集結
- 4泊5日の集中合宿
- 講義・集中ゼミで最先端研究をキャッチアップ
- 学会形式で自分の研究を発表

若手研究者が研究の道を本格的に歩み始める第一歩になります!!!

参加・幹旋・各種協賛お願いします!!!

↓個人協賛応募フォーム↓(調整中)

